

結核医療の拠点病院に勤務する看護師の意識調査

～結核専門分野研修の充実をめざして～

西山由美子* 濱口靖子 五百川明子 中山雅子

国立病院機構鳥取医療センター看護部 2 病棟

*Correspondence: Byoutou2@tottori-iryo.hosp.go.jp

要旨

結核専門分野研修への参加率増加のための方法を探ることを目的に、結核に対する意識調査を行った。90%の有効回答者を得て、結核病棟勤務の有無・結核専門分野研修参加の有無・参加しなかった理由・結核専門分野研修で学びたい事柄・結核に対する知識等について調査を行った。結核に対する知識の必要性は92%の者が感じていたが、結核専門分野研修に実際に参加したことがある者は22%であった。結核に対する知識の調査では、結核病棟勤務経験者と未経験者との間で差がみられ、それ以上に研修参加の有無で差がみられた。業務が忙しく参加する時間がない、今の業務に関係ないから参加しないという現状が明らかとなったが、結核専門分野研修で学びたい項目を調査すると高い返答率があり、看護職員の学習ニーズは高く、専門分野研修の実施時間・PRの方法・研修内容を工夫すれば参加率を上げることができる可能性があることが分かった。鳥取臨床科学 7(2), 165-173, 2016

Key Words: 結核専門分野研修, 意識調査, 結核病棟勤務, 結核知識

I. はじめに

日本における結核罹患率は先進国の中では中蔓延国で、いまだに年間二万人以上の新規結核患者が発生しており、国の主要な感染症の一つである。厚生労働白書によると、「結核は、かつては若者の病気であったが、現在の新規結核患者の50%以上は高齢者であり、結核以外の合併症を持っていることが多いのが特徴である。近年、結核の院内集団感染の多発や死亡例が報告されており、本来医療を提供すべき医療機関において、逆に感染を受けるという事態が生じている。」と述べられている。また、患者と接する時間が最も多い看護師は、一般人と比べ3～5倍も結核に感染しやすく、さらに精神科病棟では結核患者発症の頻度が高く、一般病棟勤務者よりも看護師の結核感染に対する危険度は高いという報告がある。院内感染を防止し、看護師

の職業的曝露を防ぐためには、結核に対する正しい知識をもつことが必要である。

A病院は18床の結核病床を有し、B県東部の結核拠点病院である。毎年、院内全看護師を対象に結核専門分野研修を実施しているが、参加者はきわめて少ない現状がある。A病院は病床数469床の規模の大きな病院であり、精神科病棟もある。このような病院で結核が発生した場合、看護師やその家族を含めた集団感染は甚大なものとなることも予想される。そのため、結核患者の早期発見や感染対策のため、結核に対する正しい知識が必要と考える。また、大森¹⁾は「結核に対する知識の均一化は結核病棟を有する病院の今後の課題といえる。」と述べている。

今回、A病院に勤務する全看護師に結核に対する知識、結核研修への意識を調査し、現状を